

有田町・マイセン市

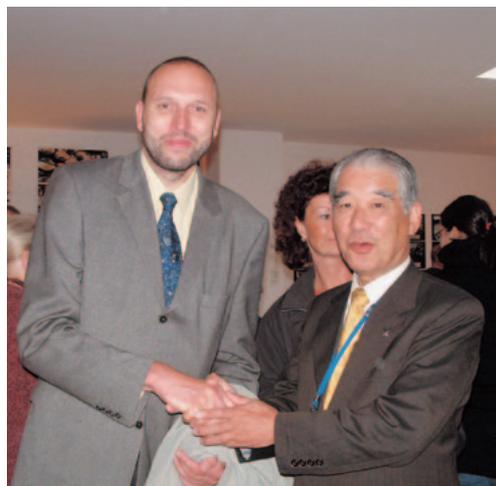
25周年記念事業

思い出のファイル

Arita und Meissen
Erinnerungen an die 25-Jahrfeier







CONTENTS

有田町長あいさつ2
 マイセン市長あいさつ3
 有田マイセン友好協会会長あいさつ4
 マイセン有田友好協会会長あいさつ5

有田マイセン姉妹都市 提携25周年に向けた動き6~7

有田陶器市100回記念・25周年記念イベント
 有田マイセン交流の夕べ他

有田マイセン姉妹都市提携25周年記念事業 in Meissen ワインフェスタ

ワイン祭パレード・オープニング 他8~9

ARITA DAY

日本・有田文化紹介10~11

記念交流

記念セレモニー12

姉妹都市交流会・ドレスデン・ベルリン観光 他13

ヨーロッパ窯業・経済視察14

ドイツ有田陶芸展15

訪問団参加者の声16~17

スケジュール18

参加した人たち19

アンケート結果20

協力していただいた企業・団体／陶都有田国際交流協会の紹介

ごあいさつ



有田町長
篠原 啓一郎

1979年2月9日に有田町とドイツ・マイセン市は磁器を通じて、当時の青木町長とマイセン磁器製作所総裁カール・ペーターマン氏の間で姉妹都市の調印が行われました。以来、周年記念にはお互いの町を舞台にした記念事業を開催してまいりました。

有田ダムの「マイセンの森」には歴代マイセン市長が植樹された木が25年の時を経て大きく育っており、町民のいこいの場となっております。また、九州陶磁文化館の庭には1mを超す「マイセン磁器冠火喰鳥」の置き物が水を噴き上げ、マイセンの鐘の音は来館した観光客の心を和ませています。

マイセン市には、姉妹都市協定に尽力した青木町長とカール・ペーターマン氏のレリーフが庁舎玄関に設置されており、20周年の折に“有田さくらの会”が桜の木を植樹した通りが「有田通り」と命名され毎年春には桜の花が咲きほこっています。

今回の25周年記念事業には、9月21日から9月29日まで町民や有田マイセン友好協会、有田商工会議所、有田陶芸協会の方々など総勢84名がマイセンを訪問しました。期間中は佐賀県と佐賀新聞社の協賛による「ドイツ有田陶芸展」が開催され、酒井田柿右衛門有田陶芸協会会長をはじめ協会会員の作品が25周年記念事業に花を添えました。その後、ベルリン日独センターとデュッセルドルフのゲーテ博物館で開催された陶芸展も予想以上の反響を呼びました。

マイセン磁器製作所における記念セレモニーでは、名誉町民の柴田祐子氏がヴァルター社長に明治・大正期の古伊万里の壺2点を贈られ、たいへん感銘深く感じました。またマイセン市博物館と図書館の間の壁に有田焼の陶板を設置した除幕式を行い、有田とマイセンの絆を深めることができました。

期間中は連日「有田カルチャーホール」に多くのお客さんがつめかけ、写真の展示や折り紙、おもちゃ作り、そば打ち、ろくろ実演、絵付け実演、山水画、書道の指導、皿踊りなどを楽しみました。中でもマルクト広場での大野太鼓のメンバーの演奏は、大勢の観客からアンコールの連続でした。最終日のワイン祭パレードでは、有田皿山節をマイセン市民といっしょに踊り、ひと際観客の目を引きました。

またこれまで国際交流員として有田に滞在したヨークさん、シュテファンさん、ロベルトさん、アンドレアさんたちが各地から応援にかけてくれて再会を喜び合いました。前市長のポーラック氏が退任し、就任間もない新市長オラフ・ラッシュケ氏が私どもを心から歓迎してくれたことにも感謝申し上げます。

25年間で培われた私たちの交流も近年ますます活発になり、絆も固く結ばれ、世界平和と文化の発展につながることを確信いたしました。この25周年記念事業の計画、準備、実施まで何かとご協力いただきました関係者の皆様方に心から感謝申し上げまして、ごあいさつといたします。

ごあいさつ

伝統を受け継いで、毎年マイセン市ではワインフェスタを実施しています。マイセン市はドイツの中でも小さなブドウ栽培土地の一つです。ワインフェスタは、ブドウが育つ段庭の苦労を強いる仕事の後に労をねぎらい、豊かな収穫を感謝するための催しです。ワインフェスタの期間中、マイセン市民をはじめ、関係者やお客さんたちはいっしょに祝い、きれいな景色を楽しみます。

マイセン市で開催されるすべての祭りの中でも、ワインフェスタはいちばん特徴的な祭りです。ワインフェスタの時にマイセン市は客を親切にもてなすことや、世界に向けて開放的になり、自分たちのいちばんいいところや特別な魅力を見せます。

ワインフェスタの機会に、マイセン市の周辺の地域のワイン醸造を紹介するため、地域、ヨーロッパ、もっと遠いところからワインファンがマイセンにきます。訪れた観光客たちは、1000年間の長い歴史を持つマイセン市の市内を散策しながら、美味しいワインを味わいます。私は毎年マイセン市が自分の華やかな魅力を披露するワインフェスタの開催を楽しみに待っています。

ワインフェスタの時にマイセン市では、姉妹都市関係を結んでいる都市の代表者を招待する習慣があります。マイセンが姉妹都市を結んでいる都市は、有田町（日本）、コルフ（ギリシア）、プロヴォ（米国）、ヴィトリ（フランス）、リトムニェジツェ（チェコ）、フェルバッハ（ドイツ）といった多数の都市です。

これらの都市との長年にわたる交流の中で、互いに経済・教育・スポーツ・観光・文化・芸術など、さまざまな分野における深い友好関係に発展しました。昔から存在する姉妹都市関係は互いの尊敬や友好を証明しています。

特に昨年のワインフェスタのメインは、マイセン・有田姉妹都市の25周年記念でした。お互いの陶芸を愛する心で結ばれている両都市の人は、マイセンでの数日間をいっしょに楽しく過ごしました。マイセン磁器製作所や市内のいろんな場所で、有田の皆さんとイベントを実施して、長年の温かい関係を証明しました。両側の姉妹都市25周年記念事業の関係者が、ワインフェスタの中で草の根レベルで行った交流が印象的でした。

また25周年記念として、マイセン市博物館と図書館の間の壁に、有田の陶芸家が作り、マイセン市にプレゼントしてくれた陶板15枚を設置しました。ほんとうにすばらしいプレゼントだと思っています。マイセン市民や訪れる観光客にマイセン市と有田町の深い関係を紹介します。

将来もこれまでの両都市の温かい関係が発展することを希望しています。両都市のますますの発展と市町民の皆様のご健康をお祈りいたします。



マイセン市長
オラフ・ラッシュケ

25周年交流事業を終えて



有田マイセン友好協会会長
(有田マイセン姉妹都市
25周年記念事業実行委員会会長)

手塚 英樹

鳴り止まぬ拍手、満面笑顔のマイセンの人たちが有田カルチャーホールをいっぱいにしました。充実した25周年記念事業をやり遂げた満足感と、さらなる友情を確かめ合えた瞬間でした。姉妹都市交流の歴史の中でも、20周年からのこの5年間はお互いにとって、友情を深めあえた忘れることのできない5年間でした。

有田の少年サッカーチームが、マイセンの子供たちとマイセン市で親善試合ができたこと。有田窯業大学校の講師として、カイ・レオンハルト氏が来日し、マイセン市がより身近に感じる事ができたこと。マイセン市洪水のとき、有田町民からの募金をマイセン市に渡せたこと。ハレ芸術大学に有田窯業大学校OBが留学したこと。毎年充実した青少年たちの交流事業など、姉妹都市マイセン市が有田のよりそばに感じるようになった5年間でした。

今回の25周年事業はそれらをふまえての記念事業でしたので、たいへん盛り上がりました。特に20周年のときにできなかった和太鼓の演奏が今回実現し、多くのマイセン市民に喜んでいただくことができました。またワインまつりのパレードで皿踊り隊にマイセン市民、有田の2チームで参加できたことなど、この記念誌では書きつくせないほど、友情あふれる交流ができました。

私が個人的にうれしかったことは、1992年に青少年友好親善使節団の派遣を始めましたが、その当時参加した子供たちが、今は立派な大人になって向こうの友好協会を支えてくれていたことでした。今回の記念事業の中ではスタッフとして、私たちやいろんな人たちに気を配りながら、活動を盛り上げてくれました。

有田の子供たちの中にも、青少年友好使節団に参加した経験を生かして、個人的にマイセン市へ出向き、ホームステイをしながら現地の人たちと交流している子供もいるようです。友好協会を設立した当初に、目ざしていた市民間の交流が一つずつ実現しています。

25周年記念事業に参加していただいた皆さん、有田で我々を支えていただいた多くの皆さんに感謝いたします。そして姉妹都市マイセン市民の友情に深く感謝いたします。

今後ますます、姉妹都市の友情の輪が強く深く永く続くことを確信した25周年記念事業でした。

私の日本のふるさと有田町へ 感謝の言葉

2004年にマイセンで実施されたワインフェスタは、今まで私が体験したワインフェスタの中でも、いちばんすばらしかったです。姉妹都市関係を結んでいるお互いの都市が銀婚式を祝い、特別な独日ワインフェスタになりました。

やきもので有名な両市の25年間の関係は、本当の意味で生きたドイツと日本との姉妹都市関係の手本を示します。1979年の2月に東京で姉妹都市の調印が行われたとき、私は14歳でした。その当時、日本といえば遠くに行くことが困難な国を想像しました。しかし現在、マイセンから1万キロ離れている有田は、私にとってマイセン市や自宅、家族と同じような近い場所になりました。それだけではなく、私の第二のふるさとです。

2004年のワインフェスタは有田から来てくれた訪問団や大野太鼓の演奏会が開催された時に夢が実現しました。両市の友好協会、市役所、役場、企業の皆さんの苦労のかけがえがあったと思います。

私はたくさんの事業やすばらしいイベントを思い出しては、よく友だちとワインフェスタの話をしつめます。特に記憶に残った催しは、ブルグケラーホテルで開催し、来場者を魅了した「ドイツ有田陶芸展」。また、ペーター・シュライヤー氏のコンサート、客の人数で記録を作った「有田フォーラム」、プロシュヴィッツ城の厳粛なワイン試飲会や「姉妹都市のブドウの木」の命名などです。

有田の陶芸家から作ってもらった陶板15枚は、2004年の9月にマイセン市内に設置され、世界中の観光客を歓迎しています。このすばらしいプレゼントをもらって、心から感謝したいと思っています。

ワインフェスタの期間中ずっと、皆の関心の的だったマイセン有田友好協会が主催した「有田屋台」は市役所前の市場やハインリヒ広場でオープンしました。有田から持ってきてくれたお酒はヒット商品としてすぐに売り切れました。また、皿踊りを見ているとワインフェスタの雨や寒気を忘れるようでした。

個人的に最も感動した瞬間は、25周年を記念してマイセン磁器製作所で行った記念セレモニーです。僕は有田の人たちと深い友情で結ばれるようになった体験を思い出しました。1994年に初めて有田に来てから今までの多数の訪問と、将来たくさんの訪問が続くと確信を持っています。

私は有田とマイセンの両面でボランティアしてくれた人たちや組織、団体、企業、市役所、役場などに感謝したいです。皆の協力のおかげで忘れがたい銀婚式ができました。

将来我々の姉妹都市関係が今までと同じように続くことと、みんなのご健康とご多幸を祈ります。



マイセン有田友好協会会長
(マイセン磁器製作所 観光マネージャー)

カイ・レオンハルト

姉妹都市 提携25周年に向けた動き

2004年2月9日の姉妹都市提携25周年を迎えるにあたって、町全体の気運を高める様々な交流事業を展開しました。2003年春には、有田陶器市100回記念に合わせて姉妹都市交流イベントを実施。マイセン音楽隊による演奏会やマイセン磁器製作所の絵付け職人による絵付けの実演をおこないました。また有田マイセン交流館(有田館)でのマイセンワインの試飲やマイセン焼の展示などは大好評でした。

有田陶器市100回記念 25周年記念プレイベント



マイセン音楽隊の演奏



たくさんの人で賑う有田マイセン交流館



マイセン音楽隊とジャズグループの共演



姉妹都市提携20周年記念事業回顧展



マイセンワインのふるまい



懸垂幕の設置



マイセン絵付職人による実演



表敬訪問

ウェルカムパーティーでの演奏



ドイツ名物フツメルの販売



マイセン焼の展示

有田マイセン
交流の夕べ



マイセン市の紹介

有田マイセン青少年
友好親善使節団派遣事業



事前学習会

事前準備



第一便の発送

C/S MARK
TO:Rathaus Meissen
Markt 3 01662 Meissen
Germany
C/No.1



実行委員会組織図



皿踊りの練習



パレードに向けて練習する参加者

結団式



よろこびの歌を練習する有田合唱団

マイセン姉妹都市提携25周年 記念事業 in Meissen



2004年2月9日、有田町とマイセン市は姉妹都市提携25周年を迎えました。9月21日から29日まで、有田町長を団長とする訪問団53名がマイセン市を訪れ、マイセン市最大のイベント「ワイン祭」に合わせて25周年記念事業をおこないました。

記念事業では、マイセン市内に有田カルチャーホールをオープンし、書道や絵画、ろくろや絵付けの実演などをおこない、日本と有田の文化を紹介しました。

また、ワイン祭のパレードでは有田町民とマイセン市民による混成皿踊り隊を結成し、そろいの法被や着物姿で、5万人の観衆が埋め尽くす沿道を練り歩き、大きな拍手を受けました。



Wine Festival



オープニング



篠原町長のあいさつ



有田合唱団



太鼓の公演

ワイン試飲会



有田屋台

サブステージ



ウェルカムパーティー

ペーター・シュライヤー
コンサート



マイセン磁器製作所見学



ぶどう農園
プロシュヴィッツ城



ぶどう農園



ワイン醸造所



ワインセラー



城内



姉妹都市のぶどう
の木証書



ARITA DAY

有田カルチャーホール

日本・有田文化紹介



有田カルチャーホール入口



たくさんの人が詰めかけたカルチャーホール



有田カルチャーホール前の通り



有田インフォメーション



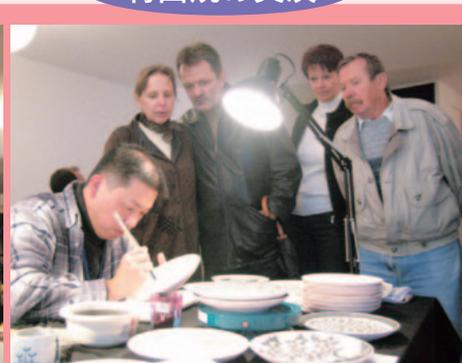
太鼓の公演



有田焼カフェ

有田焼の実演

皿踊り





竹とんぼ製作



そば打ち



碗琴



書道



写真の展示



日本画



山水画・水墨画



日本の遊び



日本舞踊



太極拳



折り紙

記念交流

記念セレモニー
(マイセン磁器製作所)



柴田祐子さんが寄贈された
明治一大正期製の有田焼



ヴァルター社長と柴田祐子さん



25個の記念
コーヒーカップ



日本舞踊の披露



左からハイニシユ八恵子さん、
篠原町長、ラツシュケ市長、ヴァルター夫妻



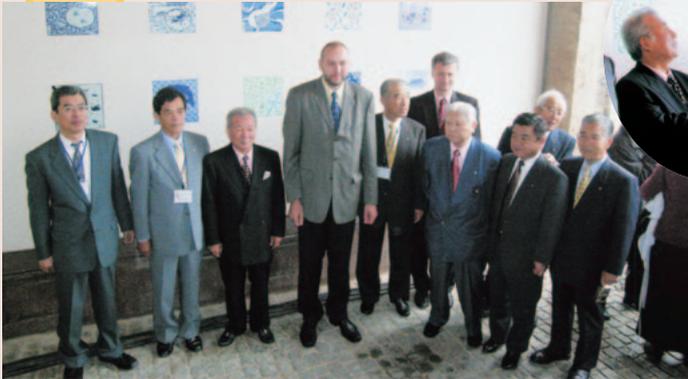
姉妹都市交流会



マイセン市の姉妹都市が参集



有田焼陶板の除幕式



返礼パーティー (シュヴェルタービール醸造所)



篠原町長とギルヴィツヒ社長



お別れ



ドレスデン・ベルリン観光



メキュールホテル(マイセン)



アルブレヒト城前の大聖堂(マイセン)



ツヴィンガー宮殿(ドレスデン)



ベルリン大聖堂(ベルリン)

新聞記事



有田焼カフェの準備や血踊りの練習
などが掲載されたマイセン新聞

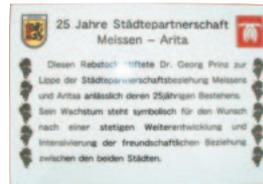
27. SEPTEMBER 2004
Meißner Zeitung

2004年(平成16年)10月4日
佐賀新聞

姉妹都市のぶどうの木陶板

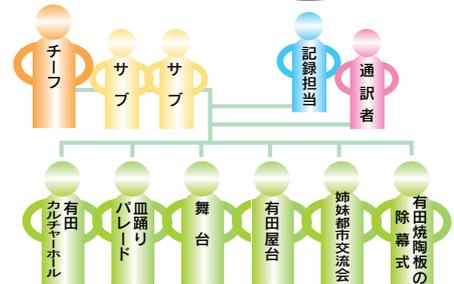


ワインショップ



ぶどう農園

事業組織図



帰国報告会



有田マイセン姉妹都市提携25周年記念

ヨーロッパ窯業・経済視察

有田商工会議所関係者一行が、有田とマイセンの姉妹都市提携25周年記念とヨーロッパの窯業経済事情を視察するために北欧5カ国を訪問しました。中でもコペンハーゲンでは、何代にもわたって築かれたみごとなルネッサンス様式の宮殿とそこに収蔵されている陶磁器コレクションを見学し、欧州の陶磁器文化について見聞を深めました。また訪問8日目には、ワイン祭オープニングや有田焼陶板の除幕式、姉妹都市交流会にも参加し、25周年記念に華を添えました。



ツヴィンガー宮殿 (ドレスデン)



ローゼンボー宮殿 (コペンハーゲン)



クロンボー城 (コペンハーゲン)



有田マイセン姉妹都市提携25周年記念

ドイツ有田陶芸展

有田とマイセンの姉妹都市提携25周年を記念して、マイセン市とベルリン市の2会場で「ドイツ有田陶芸展」を開催。両会場とも、有田陶芸協会会員51名の作品102点を展示し、有田焼400年の歴史と伝統に培われた精緻な造形と色絵・染付けの色彩豊かな作品の数々に多くの来場者は驚嘆されました。また、ベルリン市で高い評価を得たことで、急きょデュッセルドルフ市でも開催しました。

マイセン会場



デュッセルドルフ会場



ベルリン会場



帰国展

(日本橋高島屋・佐賀玉屋・大有田焼会館)



MEMORY



(屋台)

吉村 健二さん

私にとって初めてのマイセン行き。心に残っているのはマルクト広場で開いた屋台です。酒やそばを販売しながら、市民の皆さんと接することができました。特に「ライスワイン」として販売した日本酒は好評でした。また、みんなに食べてもらいたくて炊いたごはんが失敗したことも、今では楽しい思い出です。現地では元国際交流員のロベルトさんが、食材などを調達してくれてとても助かりました。祭りは夜中まで賑わっているのに、マナーの良い酔っぱらいばかりで、皆楽しくお酒を飲んでいる姿が印象的でした。



(太鼓)

田代 学さん

記念事業には大野太鼓から10名が参加しました。海外演奏は今回が初めてということで、メンバーは出発まで猛特訓でした。マイセン市では4会場で演奏しましたが、太鼓と聴衆の距離が近く、マイセン市の皆さんも太鼓の珍しい音にとっても興味深く聞いてくれました。特にブルグケラーホテルでは、聴衆の皆さんから最後にスタンディングオベーションを受け、とても感動的でした。現地で太鼓の手配や通訳として手伝ってくれたハイニシュ八恵子さんとは、帰国後も、手紙のやりとりなどで連絡をとりあっています。



(ろくろ実演)

高田 和代さん

マイセン市を訪れた最初の印象は、町並みがとてもきれいだということでした。美しいマイセン焼がこの環境の中で作られていることが納得できましたね。ろくろの実演は中原さんと2人で行ないましたが、マイセンでは機械ろくろが主流で、全て人の手で作る私たちのやり方が珍しいようでした。また、私は希望してホームステイをしたのですが、マイセンのふだんの生活を垣間見ることができて貴重な体験をしました。家庭では子供が親の手伝いをよくしています。自分たちの住む町を誇りに思っているように感じました。



(皿踊り)

円田スマ子さん

パレードで皿踊りをしました。私は5年前の20周年のときも参加しましたが、歩道いっぱい集まった観客の中をパレードで練り歩くのはとても気持ちよかったです。いっしょに踊ったマイセン市民も事前に練習してくれていたの、すぐ本番に臨むことができました。また、私にとってのドイツ訪問の大きな目的は、元国際交流員だったアンドレアに会うことでした。彼女の両親や友達と会ってドイツを旅行したのが本当に楽しかったですね。今でもアンちゃんとはよく電話で連絡を取り合っています。



(カルチャーホール)

深川 祐次さん

有田カルチャーホールで日本と有田の文化を紹介しました。現地スタッフの皆さんが皆親切で、言葉は通じなくてもコミュニケーションがとれました。人気だったのはドイツ人の名前を漢字のあて字で書くコーナーで、行列ができるほどでした。また驚いたのは、マイセン磁器製作所を見学したとき、日本語を含めた外国語ガイドスが用意してあったこと。それだけ製作所への外国人観光客が多いということだと思います。初めてマイセンを訪れましたが、40年前父が訪問した時代と比べると簡単に入国できる国になったことが感慨深かったです。



(屋台)

久家 郁子さん

今、私はドイツにすっかりはまっています。というのも、この記念事業に参加したことがきっかけになりました。私は有田屋台でおつりの受け渡しを担当しました。事前学習会での覚えたてのドイツ語を使って金額を伝えるのですが、私の身長のためか子ども扱いをされたようで、なかなか思うようにできません。だけど、片言の英語と折り紙で興味を持ってもらえたと思っています。帰国後、さっそくドイツ学教室に通い始めました。次にドイツに行くときはドイツ語で交流することが目標です。



(絵付実演)

下平 好則さん

カルチャーホールで絵付けの実演をしました。伝統的な花の模様などを描きましたが、見ていただいた方の中には持ち帰りたいという人もいて、うれしかったです。それから、私が絵付けに使用していただき筆を見て、現地ではとてもびっくりされました。大きな筆で細かい作業をするのが珍しかったようです。私自身もマイセン磁器製作所でマイセン焼の絵付けを見学しましたが、技術の高さに感心しました。しかし、筆一つにしても改めて有田焼の良さを再確認することができ、私にとっていい経験になりました。



(書道)

今村安伊子さん

市民交流の一つとして、書道を紹介しました。外国人を相手に最初はとまどいましたが、やり始めたらおもしろいのなんのって。真剣な目つきで私どもの手を見つめているご本人の前で、音読み訓読みまじえて、ドイツ人の名前を漢字で書いてあげました。マイセン市民の永遠の幸せと繁栄を願い、あて字ながらよくも書けたものだ、と今さらながら感心します。持参した1,000枚の半紙を全て使いきりました。文化を伝え、理解し、ふれあう中で育てていく友好関係の大切さを痛切に感じたマイセンのワイン祭でした。



(日本舞踊)

下村智恵子さん

マイセン市はおとぎの国のようでした。外国で日舞を披露するという初めての経験でしたが、本当に感激しました。私は踊りをしている性分か、音楽がかかると踊らずにはられません。広場で皿踊りをしていると着物姿が目についたのか、一人のマイセン市民が私といっしょに踊ってくれました。次の日、偶然町の中でその人に会い、覚えていて話しかけてくれたのはうれしかったですね。友達に誘われて参加したマイセン訪問でしたが、パレードでは皆さんの着付けのお手伝いをして、お役にたててよかったです。



(日本の遊び)

金岩 昭夫さん

マイセン市はエルベ川に沿ってアルブレヒト城や家々、ぶどう畑などがある美しい町でした。私はカルチャーホールで日本の遊びコーナーを担当しました。将棋やお手玉、竹とんぼ、折り紙、おはじき、だるま落とし、お面、竹製風車、けん玉などを紹介しながら「こんにちは」「マイセンは美しいですね」「お名前は？」と簡単なドイツ語の会話をしました。マイセンの人は親しく接していただき、また日本の遊びに興味を持ってくれたので、うれしく思いました。これからも交流が深い絆で永く受け継がれていくことを願っています。

スケジュール

「有田マイセン姉妹都市提携25周年記念事業」訪問団 平成16年9月21日(火)～29日(水)

月日	地名	摘要	宿泊
9/21 (火)	有田 ドイツ	有田 → 福岡国際空港 → 成田国際空港 → フランクフルト国際空港 → ドレスデン空港	ドレスデン
9/22 (水)	ドイツ	ドレスデン市内観光 ウェルカムパーティー ペーター・シュライヤー (マイセン出身オペラ歌手) コンサート	マイセン
9/23 (木)	ドイツ	ドイツ有田陶芸展オープニングセレモニー・マイセン磁器製作所見学・ニコライ教会見学・姉妹都市提携25周年記念セレモニー	マイセン
9/24 (金)	ドイツ	ぶとう農園見学 プロシュヴィッツ城での歓迎会 有田カルチャーホール・有田屋台開店 ワイン祭オープニングセレモニー	マイセン
9/25 (土)	ドイツ	ワイン祭 有田焼陶板の除幕式 姉妹都市交流会 ワイン試飲会	マイセン
9/26 (日)	ドイツ	ワイン祭・ワイン祭パレード 有田カルチャーホール 有田屋台閉店 返礼パーティー	マイセン
9/27 (月)	ドイツ	ベルリン市内観光 訪問団お別れ夕食会	ベルリン
9/28 (火)	ドイツ	ベルリン市内観光 ベルリン空港 → フランクフルト国際空港 → 成田国際空港	機内
9/29 (水)	有田	福岡国際空港 → 有田	

「ヨーロッパ窯業・経済視察」訪問団 平成16年9月17日(金)～27日(月)

月日	地名	摘要	宿泊
9/17 (金)	有田 デンマーク	有田 → 福岡国際空港 → 成田国際空港 → コペンハーゲン空港	ハーゲン
9/18 (土)	デンマーク	コペンハーゲン市内観光 北シュラン島古城観光	ハーゲン
9/19 (日)	デンマーク ロシア	サンクトペテルブルグへ移動 サンクトペテルブルグ市内観光	サンクトペテルブルグ
9/20 (月)	ロシア	サンクトペテルブルグ市内観光	サンクトペテルブルグ
9/21 (火)	ロシア デンマーク スイス	サンクトペテルブルグ→コペンハーゲン→ジュネーブへ移動	ネージュ
9/22 (水)	スイス	モンブラン観光	ネージュ
9/23 (木)	スイス ドイツ	ジュネーブ→フランクフルト→ドレスデンへ移動	ドレス
9/24 (金)	チェコ ドイツ	プラハ市内観光・ワイン祭オープニングセレモニー	ドレス
9/25 (土)	ドイツ	有田焼陶板の除幕式 姉妹都市交流会 ドレスデン市内観光	ドレス
9/26 (日)	ドイツ デンマーク	フランクフルト国際空港 → コペンハーゲン空港 → 成田国際空港	機内
9/27 (月)	有田	福岡国際空港 → 有田	

ドイツ有田陶芸展

1. ドイツ会場

- ①マイセン市「ブルグケラーホテル」
平成16年9月20日(月)～24日(金) 5日間
 - ②ベルリン市「ベルリン日独センター」
平成16年10月14日(木)～31日(日) 18日間
 - ③デュッセルドルフ市「ゲーテ博物館」(追加開催)
平成17年1月30日(日)～2月13日(日) 12日間
- ドイツ会場：各会場とも、有田陶芸協会会員51名の作品を各2点ずつ計102点を展示した。
- ①マイセン会場 ・来場者数：約 800人
 - ②ベルリン会場 ・来場者数：約3,500人
 - ③デュッセルドルフ会場(追加開催) ・来場者数：約4,000人

2. 帰国展

- ①佐賀市「佐賀玉屋本館6階催事場」
平成17年3月8日(火)～14日(月) 7日間
 - ②東京都「日本橋高島屋8階特設会場」
平成17年3月23日(水)～28日(月) 6日間
 - ③有田町「大有田焼会館3階講堂」
平成17年4月29日(金)～5月8日(日) 10日間
- 帰国展会場：各会場とも、有田陶芸協会会員51名の作品を各2点ずつ計102点を展示するとともに、小作品を各5点ずつ計250点を展示した。
- ①佐賀会場 ・来場者数：約 6,000人
 - ②東京会場 ・来場者数：約10,000人
 - ③有田会場 ・来場者数：約 3,500人

参加した人たち

(50音順・敬称略)

●「有田マイセン姉妹都市提携25周年記念事業」訪問団 53名

飯野政行	碓哲雄	今村安伊子	岩永信子	円田スマ子
小川馨子	金岩昭夫	金武秀文	兼田栄子	金武節子
金武康男	神近康三	蒲地千代子	蒲地豊	川久保夏光
北川美紀	久家郁子	篠原啓一郎	柴田祐子	下平好則
下村智恵子	瀬戸口寛子	高田和代	多久島道彦	武富正彦
田代正昭	田代学	舘林弥栄子	辻武史	塘重雄
塘久子	手塚英樹	中島惇而	中野澄子	中野哲也
中原真希	中原洋子	二宮閑治	馬場真理子	林大捷
原田寿雄	原田一二三	深川祐次	古田秀之	堀江幸子
堀江秀明	前田凡夫	松尾和利	松尾美代子	森田トミエ
森永美智也	山崎保子	吉村健二		

●「ドイツ有田陶芸展」訪問団 57名

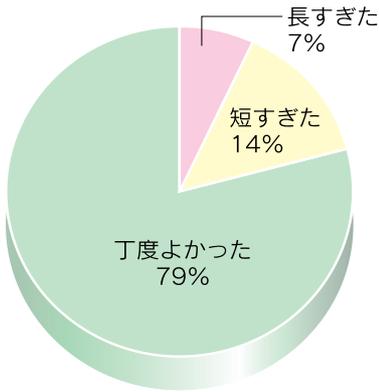
浅井昌子	飯盛一代	飯盛正恒	井上康德	今村博
岩永浩美	ヴェッシュ ロルフ	エドワード・クランドール	大野清徳	奥川俊右衛門（一俊）
奥川弘子	梶原茂正	河口純一	河口治子	河東克典
栗田澄彦	酒井田郁子	酒井田柿右衛門	酒井田千穂	佐藤走波
清水耕一郎	庄村健	末松千春	武富公二	田澤千春
舘林葉子	舘林里佳	辻誠一	筒井孝司	照井一玄
照井文子	中尾清一郎	中尾英純	中尾恭純	中島康夫
永田明子	中野武志	中野龍之	中山麗	西山勇
西山正	波多野善蔵	馬場九洲夫	樋口武子	古川康
前田泰昭	松尾勝也	水崎シノブ	百田暁生	森田あさ重
諸岡京子	諸岡良治	山口文彦	山口葉子	山田真人
吉田雅子	吉丸正栄			

●「ヨーロッパ窯業・経済視察」訪問団 16名

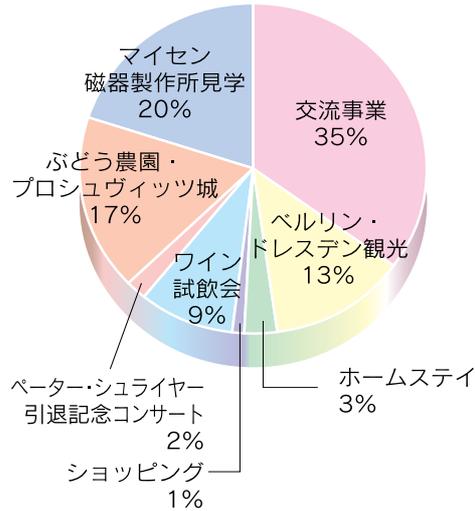
岩永真祐	尾崎征矢子	尾崎好弘	柿澤弘子
蒲地昭三	蒲地康郎	木下忍	木下須美子
栗山博紀	末村剛	平谷亮二郎	益田淳子
益田正晴	宮原孝嘉	宮原弘子	杠常夫

アンケート結果

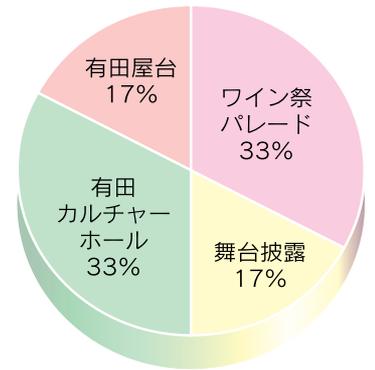
ドイツ滞在期間について



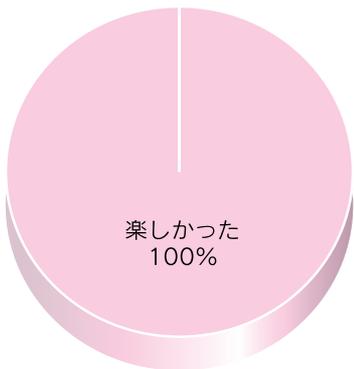
今回の訪問で何が楽しかったですか



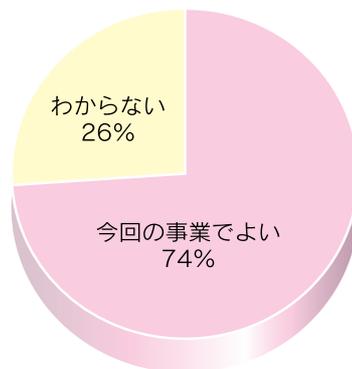
交流事業と答えた方



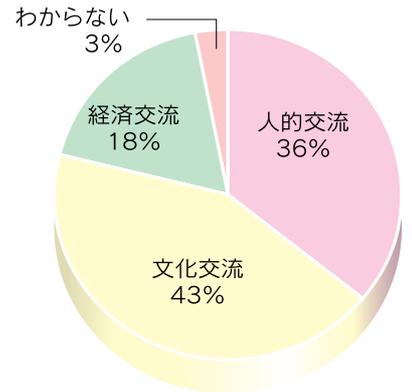
姉妹都市提携25周年記念事業に参加してどうでしたか



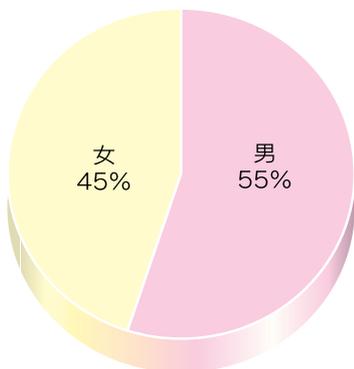
今回の交流事業以外に実施したほうがよいものがありますか



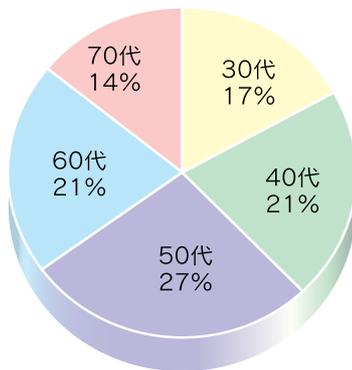
今後、マイセン市との交流に何を望みますか



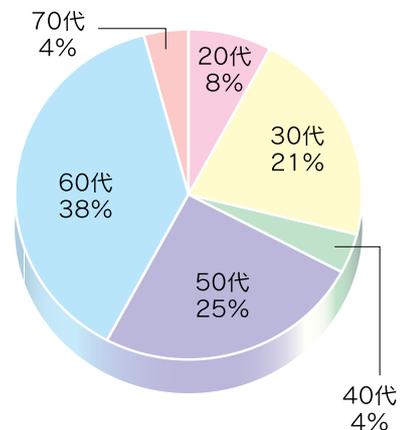
参加者の性別



参加者（男性）



参加者（女性）



協力していただいた企業・団体

(50音順・敬称略)

有田町文化協会	(株)華山	(株)源右衛門窯	(株)香蘭社
佐賀県陶磁器工業協	佐賀県窯業技術センター	(有)佐賀ダンボール商会	
(有)篠原溪山	(有)朱明窯	(有)しん窯	(株)親和伯父山
親和翔窯	(株)親和親峰	(株)親和武堅	(有)草山窯
(有)副正製陶所	(株)大乘窯	(株)貞山窯	(有)天狗谷窯
(有)伝平窯	深川製磁(株)	(株)福珠陶苑	文山製陶(有)
宗政酒造(株)	(株)ヤマトク	(有)李荘窯業所	

陶都有田国際交流協会の紹介

◆陶都有田国際交流協会とは

- 設立** 平成元年6月に主な事業所、各種団体で設立されました。
- 目的** 有田町と外国都市との産業、文化、教育等の国際交流事業を促進、国際的な相互理解による友好親善に寄与することを目的としています。
- 活動** 町民に国際交流の趣旨の普及や各種親善事業など国際都市「ありた」を目指して活動しています。

●会 員 (50音順・敬称略)

あかさかルンビニー園	有田金融協会	有田警察署
有田建設業組合	有田商工会議所	有田商店連盟
有田磁石場組合	有田地区労働者福祉協議会	有田陶芸協会
有田陶交会	有田はなぶさ会	有田マイセン友好協会
有田町	有田町教育委員会	有田町議会
有田町区長会	有田焼卸団地(協)	有田焼直売(協)
有田ロータリークラブ	井上萬二窯	(資)今右衛門
伊万里・有田焼伝統工芸士会	伊万里市農業(協)有田支所	岩尾磁器工業(株)
印刷ショップアリタ	(株)柿右衛門窯	(株)源右衛門窯
(株)香蘭社	国際ソロプチミスト有田	佐賀県議会議員(西松浦郡選出)
佐賀県陶磁器卸商業(協)	佐賀県陶磁器工業(協)	佐賀県陶磁器錦付(協)
佐賀県窯業技術センター	佐賀県立有田窯業大学校	佐賀県立九州陶磁文化館
(株)サンレオ	(株)賞美堂本店	親和陶磁器(株)
(株)セイブ	大有田焼振興(協)	陶都有田青年会議所
西松浦通運(株)	肥前有田ライオンズクラブ	肥前陶磁器商工(協)
深川製磁(株)	(株)まるぶん	宗政酒造(株)
ヤマト陶磁器(株)	龍山窯	

*写真の一部は、佐賀新聞社から提供していただいています。

企画・制作／陶都有田国際交流協会

佐賀県西松浦郡有田町岩谷川内二丁目8番1号
TEL.0955-43-2101 FAX.0955-43-2107
ホームページアドレス www2.saganet.ne.jp/arita/

発 行／平成17年 10月

印 刷／印刷ショップアリタ

THEMA Weinfest

Das neue Konzept fürs Meißner Weinfest hat sich bewährt: Es war ein ruhiges und friedliches Fest, gestaltet von regionalen Künstlern und Händlern, lebt vom Engagement der Meißner und vor allem der japanischen Gäste.

50 000 Gäste feiern Meissen und den Wein

Wetter ärgert die Organisatoren, aber die Besucher bleiben tapfer / Verein feiert 25 Jahre Partnerschaft mit Arita und dezent 1075 Jahre Meissen

Das kalte Herbstwetter kostete das Weinfest am vergangenen Wochenende zahlreiche Besucher: Rund 50 000 Gäste feierten in der Altstadt - 40 000 weniger als im vergangenen Jahr. In dicken Anoraks verpackt feierten die Besucher dennoch ein rauschendes Weinfest.

Von Claudia Parton

Knapp 50 000 Menschen haben am Wochenende in der Altstadt ein rauschendes Weinfest gefeiert. Auf 14 Rock, frischen Folk und Blasmusik-Radebeul. Vor allem die Kleinkunst ist süß", sagte Claudia Henke aus Weinböhma. Der Regen und der kalte Wind schreckten allerdings viele Besucher ab: Im vergangenen Jahr kaddick verummt folgten die Gäste den Festumzug. Der schlug den Bogen zum Stadtjubiläum: Ver-Stadtgeschichten von der Gründung bis zur Industrialisierung im 19. Jahrhundert nach Heinrich I. rit mit einer Streitaxt daher. Schüler erntenshule. „Es hat mir gefallen. Es Meißnerin Margita Rumrich. Ankeinen habe sie auf dem Weinfest um gefunden. „Es war wie immer.“

Das zweite Bild im Umzug feierte die 25jährige Städtepartnerschaft mit Arita mit einem Tellertanz. Die hundert kleinerer Arita hatte welche die Tänzer zur fernöstlicher Musik gegeneinander schlugen. Der Tellertanz steht in Japan symbolisch für Verbundenheit", sagte Bettina Acker von der Freundschaftsgesellschaft Arita-Meißen. Besuch kam auch aus der tschechischen Partnerstadt Litomerice. Der Winzer Antonin Hrabkovič hatte seinen Weinwagen auf dem Theaterplatz aufgestellt - und pendelte von Weinfest zu Weinfest. Mit einem Päckelchwimmen in der Elbe und einem Feuerwerk ging der Fest gestern Abend zu Ende. Die Polizei meldete ein ruhiges Wochenende war es fast zu ruhig. „Die Tagsüber habe ich kaum verkauft", sagte die Wursthändlerin Christina Hoffmann aus Schkeuditz. Die Koskommen will sie trotzdem. „An der Die hat mir gut gefallen.“ Gewerbe-frieden, nur das Wetter hat genervt. Natürlich gibt es immer Dinge, die man besser machen kann.“ Angesichts der knappen Vorbereitungen: knap halben Jahr habe alles gut geklappt. Das themenbezogene Konzept für die Plätze habe sich bewährt, die rund 280 Händler und Standbetreiber sowie die 22 Schaufrieden "für dieses Wetter zu-drohnen durch die Meißner Altstadt.



25 Jahre Städtepartnerschaft Meissen-Arita: Frauen aus beiden Städten führten im Festumzug gemeinsam den Tellertanz auf. Die japanischen Gäste fanden in die Fotos (alle): S2/Jörg Schubert



Mittelalterliche Tänze werden vorgeführt. Dudelsack, Trommeln und Schalmel dröhnen durch die Meißner Altstadt.



Der Gänsejunge von Meissen: Franz Kammel aus Großkagen.



Ausschnitt aus dem Brautzug von Ludwig Richter.



Kein Weinfest-Umzug ohne die kostbare Rebe: Hier schleppen die Winzer eine „Risentraube“ mit sich. Vielleicht ein Symbol für die Erntewünsche 2005?

Handmatsch denau
Badminton Seniores Andreas
Kegeln: N für Junior debeul in T

AUF E
Tolle T
Von Petra-Alexand

W einfest ist Wiedersehen, Schützen können und Kollern mit dem Nachbar, dem Chef, Feiern mit legen, Tanzen mit der Partnerstadt. Und der Bruder oder Schwester Opa. Weinfest ist Klatsch, Freude, Ausgelassenheit. Meißens tolle Tage 000 Gäste aus aller Welt die japanischen Besucher in der Stadt beobachtet. Und dazwischen wurden der zu gesichtet, freiwillig die zur Flutkatastrophe waren, Meissen bei ihrem kennen und lieben gelernt und nun jedes Jahr wieder und sogar Freunde mitbringen. Schade, dass nur ein Mal Weinfest ist. Das Bischof Kostüm kommt jetzt wieder Schrank. Die Gäste aus Arita heute ab. Der Meißner Gänse müssen wieder in den Wein damit es auch im nächsten Jahr Weinfest gibt.

POLIZEIBERICHT
UNFALL Vier Verletzte gab es bei dem Unfall Sonntag gegen ein Uhr in Klipphausen: Eine 19-Jährige fuhr mit ihrem Peugeot Richtung Wisla beim Abbremsen in einer Kurve in Schräglage. Dabei stieß sie mit einem Bus im Gegenverkehr zusammen. Die Pkw-Fahrerin und drei weitere Insassen (19, 20, 28) wurden verletzt. Schwere Verletzung. Sachschaden: 8 000 Euro.

BESCHÄDIGT. Der Maschendrahtzaun am Hundesportplatz Uferstraße in Radebeul wurde in der Nacht zum Sonnabend auf einer Länge von drei Metern beschädigt. Ebenfalls der auf der Betonstraße an der Kötzschendorfer Straße in Radebeul abgestellt war. Am Sonntag gegen 2.15 Uhr wurde entdeckt, dass eine Seitenscheibe des Fahrzeuges eingeschlagen sowie Fahrertür und Frontscheibe beschädigt waren. Schaden am Auto: etwa 1 000 Euro.

EINBRUCH. Bei einem Einbruch in eine Gaststätte auf der Hauptstraße in Radebeul wurden Radios und Computer entwendet. Als Tatzeit wird die Nacht zum Sonntag vermutet.

Arita bekommt in Meissen eine Dauerausstellung

Shinohara will den wirtschaftlichen Kontakt verstärken



Aritas Bürgermeister Shinohara.

Zum sechsten Mal ist Kenichiro Shinohara, Aritas Bürgermeister, in Meissen gewesen. Diesmal war es etwas Besonderes: 25 Jahre alt ist die Städtepartnerschaft Meissen-Arita. Dass es viele Gründe gibt, sie zu feiern, zeigte sich im Arita-Zentrum auf der Burgstraße. Viele Meißner haben inzwischen intensive persönliche Beziehungen. Shinohara möchte die herzlichen Verbindungen ausweiten. In der Roten Schule soll ab 2005 eine Dauerausstellung von Arita-Porzellan entstehen. Zudem wünscht er sich, dass Leute aus Arita und Meissen öfter für ein paar Monate im jeweiligen Gastland bleiben und dort arbeiten können. Gestern sagte Shinohara, er und die 85 Leute aus der Arita-Delegation seien „sehr dankbar für die Unterstützung in Meissen und berührt von dem großen Zuspruch, den die japanische Kultur in Meissen findet.“ Ob der humorvolle Shinohara auch zum Weinfest 2005 kommt, ist unklar. Im Februar 2005 wird er nach Meissen kommen.

„Ich bin doch nur einer in einem Haufen Verrückter“

Bernd Kaden war zum zehnten Mal „Mädchen für alles“



Organisator Bernd Kaden.

Dafür, dass das Weinfest so routinisiert abläuft, sorgt Bernd Kaden. Zum zehnten Mal war er „Mädchen für alles“, egal, ob Kabel fehlten oder eine Standgebühr zu bezahlen war. 2004 blieb alles ruhig und friedlich. Im Schichtdienst lief die Organisation, die Ordnung und Marktmeister wechselten sich ab. Kaden 1968 geboren, hat er sich ab 1998 für das Weinfest engagiert. „Ich bin doch nur einer in einem Haufen Verrückter“, sagt er. „Aber ich bin der Einzige, der die Organisation in den Händen hat.“

Das neue Kulturprogramm erntet königliches Lob

Fanny I. genießt den Trubel um ihre Person



Sichtlich stolz und gänzlich aristokratisch winkte die sächsische Weinkönigin Fanny Weisflug während des Festumzugs in die Menge und diese jubelte zurück. Das ganze Jahr über habe sie sich auf das Weinfest gefreut, sagte Fanny I. Weinprobe im festlichen Rahmen kam gut an. Auch kommt sind einige gute neue Ideen vorwirklich worden. Viel Zeit zum Feiern blieb ihr allerdings nicht. Auch Radebeul meißner